

# 経営と健康

## 日本史を彩った女性たち

第二回

### 紙幣になった女性

講談師

一龍齋貞花



本誌12月号に「災害は忘れぬうちにやってくる」の中で感震ブレイカー推進を書いたが、すぐ元日能登半島地震新聞にも書かれ感震ブレイカー設置の重要性を認識された方もあり、行政によつては設置補助金が出る地もある。神戸地震で活躍したカドニカ常備灯も再確認して頂きたい。

関ヶ原合戦が起った1600年頃、三重県伊勢を拠点にしていた商人の間で最初のお札とされる「山田羽書」が流通。貨幣の代わりに金額を書き預り手形として発行したものが、現在のお札の形とは異なりおふだのような形をしていたと(ウェブ検索)。

今年刷新される紙幣の5千円札に津田梅子が起用された。

明治10年初の洋式紙幣発行。コインから紙幣に変更する時、東京都北区の渋沢栄一氏の洋紙製造工場の洋紙がいいと、北区造幣局が作られ貨幣のほか切手など印刷されている。

明治14年から肖像が描かれたのは賈作対策から。対策にはヒゲが必要と、日本経済先覚者渋沢氏がやつと今年登場は、渋沢さんにヒゲが無かったから。

#### 女性第1号 神功皇后

日本の紙幣女性第1号は神功皇后。14代仲哀天皇の皇后、以降全部で18人の肖像が描かれているが、女性は神功皇后、樋口一葉と今回の津田梅子の3人のみ。ここでも男性重用です。これからは男性2人、女性1人起用となるこ

とでしよう。

故エリザベス2世は、イギリスはじめカナダ、オーストラリア、ニュージーランド、バハマ、フィジーなどイギリス連邦加盟国の紙幣に印刷された。

アメリカでは、2016年元奴隷で奴隷解放運動家ハリエット・タブマンが女性第1号。

メキシコでは、女性画家フリーダー・カーロ。オーストラリア、スウェーデンでは男女のバランスが必要と男女が起用され、スウェーデンでは映画女優グレン・タルボなど3人。田中絹代、美空ひばりは起用されないでしょうね。どこの国も国王や大統領など男性中心です。

日本女性第1号の神功皇后は、仲哀2年皇后となり、仲哀8年熊襲平定の

ため筑紫におもむいたが、仲哀天皇が急死し翌年新羅征討のために出征し、新羅王を服属させて帰還。勇ましい鎧姿の絵がおなじみ。筑紫で後の応神天皇を出産し大和へ凱旋する途上、麿坂王、忍熊王が叛乱し難波に上陸した皇后の軍は、反乱軍を鎮圧して皇后は皇太后となり、摂政として69年に及び没したと日本書紀にあるが、神功皇后の伝承をそのまま信頼することは出来ないと人名事典に書かれている。

日本書紀や古事記などは後年書かれたもので事実かどうかわからないが、一朝事ある時には女性も英雄しく立ち上がれと、勇ましい姿が手本とされたのは確か。この姿が紙幣日本女性第1号となったのです。

第2号 樋口一葉

樋口一葉は、152年前の明治5年3月東京府土族、元幕臣樋口家の二女として今の千代田区内幸町で誕生。父の則義は新政府の官員様のかたわら、土地の世話や高利貸しをして金をため、一葉の生涯のなかで最も幸福な時代で貧乏どころか裕福な家庭。兄がその頃発刊された読売新聞を読むのを聴いていて二歳のなつ（一葉）がそっくり真似て言うので廻りの者が驚くほど。七歳の時には、英雄豪傑伝や任侠伝を好んで読み、七歳で南総里見八犬伝を読破したほどの天才ぶり。土族の株ほしさに夏目家が倅漱石と見合いを、結婚していたら作家夫婦となったかも。

私立小学校高等科を一番の成績で卒業、しかし母親は「女子は学問より裁縫、料理が大切」と、器量がいいといえない娘を早く結婚させようと考えたが、なつは上の学校で勉強できないのが死ぬほど悲しいと書いています。

中島歌子の歌塾に弟子入りし頭角を現すものの、上流階級子女多くひげ目を感じます。そうこうするうち家督を継いだ長男23歳で急死、父は事業に失

敗しかくして樋口家は貧乏の底に突き落され家長となったなつは、本郷菊坂に移り母の着物の仕立てをしながら小説を書きはじめ、その後下谷龍泉寺で駄菓子屋を開き重い荷物を背負つての仕入れ、利益はわずか。そんな中で師匠であり恋人である半井桃水に師事、桃水31歳、一葉19歳。一葉に目をかけ世に出すための出版社まで設立。しかし真剣な恋も噂になりわずか1年で終わり。生活苦から桃水に毎月15円の援助をうけ、さらにインチキ占い師久佐賀に借金を頼むや、「妻になるなら金を出してやる」と毎月15円の手当を。日記の中で清純な処女と書いていますが、「にこりえ」のむせるようなお力の人柄。未完の「裏紫」は姦通がテーマになっており、矢張り身をまかせた経験があつたればこそ書けたのではないかとの見方がされています。「たけくらべ」を書いた龍泉寺から本郷丸山福山町に移った頃から小説が高く評価され、一葉の家には多くの文士が訪れ文士たちのサロンのようであつたと。

一時苦しさはあつたものの最後の家は当時東京で中流の上か、上流の下くらいの人が住む家だつたといわれ、貧乏作

家を強調されたのかもしれないが、わずか6年間の小学校教育を受けただけで20歳で作家デビュー、代表作「にこりえ」の流麗な文章は詩人をおもわせるものがあり、達筆で文学的教養に優れた正に天才でした。明治29年11月23日24歳の若さで肺結核のため亡くなり、お墓は杉並の和田堀廟所。20歳からわずか4年間に、「たけくらべ」「にこりえ」「十三夜」「大つごもり」を発表、ストレプトマイシンがあつて永生きしていたらと悔やまれます。一葉記念館から依頼され「大つごもり」を口演。

第3号 津田梅子

津田梅子は江戸牛込に生れ、数え年8歳の時大山捨松（大山巖と結婚し社交界の花形に）等と5人で日本最初女子留学生として渡米、小学・女学校を卒業、その間キリスト教に入信。帰国後華族女学校に奉職後再びアメリカの大学に留学。1898年万国婦人連合大会に日本代表として出席、明治33年（1900）私立津田女子英学塾大を設立し、女子高等専門教育の発展に尽力、ことに英語教育、個性尊重教育は

特色ある塾風をつくつた。「何もわからぬ女の子を異国に送るなんて、親は鬼に違いない」と梅子の両親は非難されたというが、この親も素晴らしい。アメリカで英語、ラテン語、フランス語をマスター、数学、物理学、天文学も学び11歳で帰国したが、日本語をすっかり忘れていたと、一緒に渡米した瓜生繁子（ピアニスト）は日本語で覚えていたのは「猫」一語だつたと。築地で外国人に日本語通訳してもらつたという面白い話も。日本女子教育の先覚者、素晴らしい女性代表なればこそ紙幣第3号に選ばれたのでしょう。津田塾生の間にも梅子精神が受け継がれていると申します。

数年後新紙幣に起用される女性は誰でしょう。楽しみです。

